

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見北高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年9月7日(木) 14:20~16:20
- 3 開催場所 岐阜県立多治見北高等学校小会議室
- 4 参加者

会長	小林 雄一	愛知工業大学教授
副会長	水野 知久	東濃子ども相談センター所長(欠席)
委員	長壁 和恵	会社員 元PTA役員
	加藤 恵子	消費生活協同組合理事 元PTA役員
	宮嶋 浩	バロー文化ホール館長
	則武 寿恵	PTA副会長
学校側	白石 秀史	校長
	山下 サツキ	事務部長
	西田 智子	教頭
	市川 学	教務主任
	加藤 大	生徒指導主事
	前川 泰信	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 学校祭見学
- (3) 学校評価アンケートについて
- (4) 意見交換及び協議

意見1: 学校祭では生徒たちはコロナ前の学校祭の様子をよく知らず、経験が少なく手探りで作り上げたとの説明があったが、世の中の流れを取り入れてクイズを自分たちで作るなど工夫が見られた。

意見2: ゼロからのスタートであったとのことだが、過去を知らないために新しい発想での取り組みも見られ、かえってよかった点もあった。

意見3: 学校祭のPTAのバザーが4年ぶりに行われたがコロナ前の引継ぎが活用されていて、盛況であった。保護者同士の結びつきにつながっている。

意見4: 生徒は準備期間が少ない中でもよくやっていた。発表を見るときには仲間を盛り立てており、バザー会場でのマナーもよく、見ていて気持のよいものだった。

意見5: 学校評価アンケートについては過年度の状況についてはコロナウイルス感染症の流行の影響もあり、同じ尺度ではみられないところもある。「わからない」という回答が

増えている項目があるが、必ずしもマイナスの評価というわけではない。

意見6：学校評価アンケートの結果から、質の高い授業や進路指導を行うための先生方の頑張りや、生徒がその指導によく応えている様子が伝わってくる。今後も地域との連携や卒業後の仲間とのつながりを大切にしてほしい。

意見7：昨年度、評価が観点別評価となり、評価の方法が変化していることへの対応について話があったが現在はどうのような状況か。

⇒例えば定期考査では知識・技能を問う問題、思考力・判断力・表現力を問う問題と評価を意識しながら各教科が問題作成を行ってきた。デジタル採点も取り入れているので、知識・技能に関する問題については自動採点を活用し、時間がかかる思考力等を問う問題の評価に時間が取れるようにしている。また、英語では生徒がスピーキングをタブレット端末に録音してそれをALT（外国語指導助手）も交えて評価することもある。

意見8：観点別評価になったことで生徒に有利不利が生じないか。

⇒新教育課程は今の高2生の入学時から実施されたが、その生徒たちは中学校でも観点別評価に親しんでおり、評価方法にはなじんでいる。高3生は前年度までと変更していないので、有利不利ということはない。

⇒どちらの評価方法であっても、生徒の対外模試の成績等は変わっていない。学校の目指すところに向けての指導は教育課程や評価方法の変更によって大きく変わるものではない。

意見9：評価は数字で表されるが、数字に表れないよいところを生徒に伝えることはできるのか。

⇒よいところについてのコメントの記入や言葉かけなど、今も昔も教職員と生徒のかかわりは変わらず行われている。

(5) 会長挨拶

6 会議のまとめ

第2回の学校運営協議会では、学校祭の取り組みや学校評価アンケートの結果について概ね肯定的な評価を得た。